



令和 7 年 3 月 5 日

報道関係各位

国立大学法人弘前大学

シークワサーの里帰り

【本件のポイント】

- 通常は 4 月に開花して、9 月から緑の果実で酸味の強い青切りシークワサーが出まわり、1 月に“みかん色”になる完熟果実が沖縄県内でのみ流通する。
- 国頭村奥地区の地域の方の協力により、9 月に青いままだが糖分が高まる早生型、3 月に熟する晩生型、4 月だけでなく常時開花する四季成り型を見出した。
- 現地の農家の高齢化により晩生型の原木が枯死したため、今回、弘前大学に取り置いていた原木のクローンを現地に里帰りさせることとした。
- シークワサーは在来種があるものの品種としては唯一種子なしの仲本シードレスのみが登録されている。今後は、現地の有用遺伝資源を品種登録化する事業を現地の農家と協力してすすめることとしている。

【本件の概要】

2月17日から本学のミッション達成実現経費プロジェクトの一環として、地域農業貢献する育種をすすめてきた。温暖化耐性イネのみならず、地域遺伝資源の保護と品種化を進めた。今回は、現地で貴重な原木が枯死したことを受け、有用母本のクローンを現地に里帰りさせた。今後は、このクローンを含め、複数の在来遺伝資源を品種登録する。これらを活用した地域活性化に貢献することが目的である。

【背景と経緯】

シークワサーは沖縄の在来カンキツであり、現地ではさまざまな名前と呼ばれる在来種があったとされる。一方、文化多様性の減少により、方言の消失とともに地域の固有種の消失が懸念される。そのため、総合地球環境学研究所のプロジェクトの1つとして、大西先生が代表して言語多様性と生物多様性の関連性を評価する研究が行われた。弘前大学からは農学生命科学部の石川 隆二（食料資源学科 教授）が参加し、これまでシークワサーの遺伝資源解析をすすめてきた。研究成果は「シークワサーの知恵」（京大出版会）、その他の科学論文として公表されてきた。その研究成果の1つが、沖縄県本島の北部における野生集団が最も高い多様性を示し、栽培



HIROSAKI
UNIVERSITY

プレス発表資料 PRESS RELEASE

集団としても沖縄県国頭村地区に最も高い多様性が認められた。通常は4月に開花して、9月から緑の果実で酸味の強い青切りシークワサーが出まわり、1月に“みかん色”になる完熟果実が沖縄県内でのみ流通する。国頭村奥地区の地域の方の協力により、9月に青いままだが糖分が高まる早生型、3月に熟する晩生型、4月だけでなく常時開花する四季成り型を見出した。現地の農家の高齢化により晩生型の原木が枯死したため、今回、弘前大学に取り置いていた原木のクローンを現地に里帰りさせることとした。



沖縄県国頭村奥地区においてカンキツ園を営む糸満盛信さんと奥地区出身者でご協力いただいている宮井邦昌氏。手前が晩生のシークワサー



筆者と試験圃場地を提供いただいた糸満盛信氏。同氏は現地出身者であり、奥地区にカンキツ園を経営されている。



HIROSAKI
UNIVERSITY

プレス発表資料
PRESS RELEASE



2月下旬では他のシークワサーは花芽を出さず、1月に完熟したシークワサーはこの時期には樹上にみられない。常時開花型の系統は花芽と熟した果実が1つの樹に共存する。

【今後の予定・期待】

取り木したクローンをもとに品種申請に必要なデータを揃えることで品種申請を行うこととしている。

【情報解禁日時】 なし

【取材に関するお問い合わせ先】

（ 所 属 ）	弘前大学農学生命科学部
（ 役 職 ・ 氏 名 ）	教授・石川 隆二
（ 電 話 ）	0172-39-3778
（ E - m a i l ）	ishikawa@hirosaki-u.ac.jp